



[尚寿会グループスタッフ]

尚寿会グループの未来

～「尚寿包括ケア構想 2025」と「コト医療」～

理事長が狭山市から表彰

尚寿会グループのCSR活動

一般介護予防教室 転ばない健康教室 スタート・水野体操教室 さんぽ
コンセプトは「気づく！ 知る！ 変わる！」

ご近所探訪・第3弾 所沢北田農園 苺のマルシェさん

狭山市市政功労者の表彰

～子ども達の健康サポート～

昨年10月29日、狭山市より大生病院院長の實積英彦が12年以上に渡り狭山市立入間川小学校の学校医を務め、保健衛生における市政功労者として表彰されました。

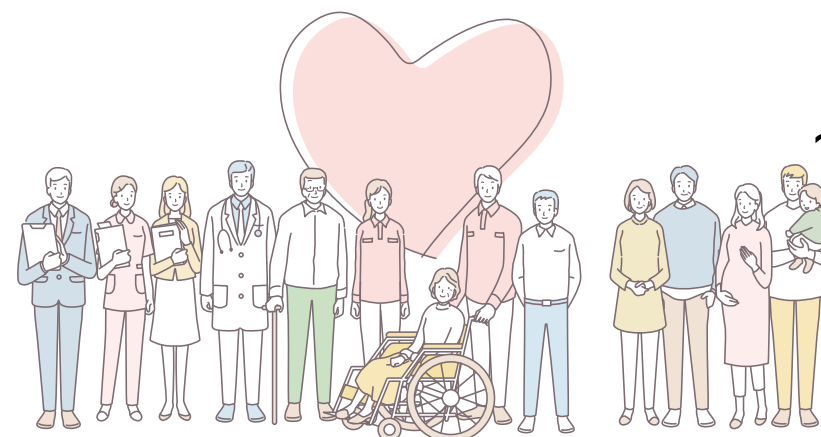
学校医とは小学校等における健診等での健康サポートの他、コロナ感染症等における感染対策や学級閉鎖などを最終的に判断・決定をする校長先生への医学的観点からの助言などを行ないます。昨年には狭山市内でもコロナ感染症が流行し、市内多くの学校で学級閉鎖や時には学年閉鎖をせざるを得ない状況に追い込まれました。院長も毎日のように学校とも協議しながら子ども達の健康と学業等とを鑑みながら医学的な視点から助言をされたようです。コロナ感染症への対応・考え方はワクチン接種の回数や濃厚接触者の待機期間など変化をしていますが、まだまだマスクを外して以前と同じような学校生活は行えていません。尚寿会として引き続き最新の知見による適切な環境を整えるための助言と、子ども達の健やかな成長に少しでも協力していければと思います。



尚寿会グループの未来

～「尚寿包括ケア構想 2025」と「コト医療」～

尚寿会グループ 法人統括本部 統括本部長 養田 純一



養田 純一 統括本部長



新型コロナウイルス感染症の発生から3年が経ちました。2022年も尚寿会グループ内の病院・施設でも院内感染が多発し、本当に苦しい運営を強いられた1年間でした。感染対策のために入院入所者様・外来患者様・ご家族様には大変なご不便をお掛けしたことを心からお詫び申し上げます。そして、心身共に疲弊しながら患者様を守ってくれた職員の皆さん、重症患者を診ていただいた連携医療機関の皆様、支えてくださった地域の皆様全てに感謝

を申し上げます。

40年以上の歴史のある尚寿会ですが、ここ数年の未曾有の災禍を含めて私達を取り巻く環境は大きく変わりました。ご存じの通り、高齢化が進むにつれ社会保障費が膨れ上がり診療報酬介護報酬は抑制傾向にあります。医療介護人材不足も深刻な問題となっており、そしてこの感染症の蔓延、医療介護施設経営はとて難しい舵取りが求められる時代となりました。

私達尚寿会グループは、このような環境変化へ柔軟に対応できる組織を目指して2021年4月より法人統括本部を立ち上げました。本年初年度の仕事として、外部と内部の環境を分析し、尚寿会グループの未来を議論して3年間の中期計画「尚寿包括ケア構想2025」を策定しました。この「尚寿包括ケア構想2025」では原点に立ち返り、尚寿会グループ全体が協力し、回復期後半から慢性

る文化です。出来ることなら「入院しても人生を楽しんで欲しい。歳を重ねても人生を謳歌して欲しい。」と私達職員は常に願っています。そのためには本業である良質な医療介護福祉サービスの提供は当然として、そこに「コト医療」があることが大切だと考えております。

「コト医療」は医療介護福祉サービスの付随するものが全てではありません。地域への社会貢献、職員同士、医療機関同士など全ての接点に「コト医療」はあるはずです。この「コト医療」という果実を実らせることにより、患者様、利用者様、地域の皆様、職員の皆さん、全ての関

係者が尚寿会グループと関わりを持つて良かったと思っていただくことが、私達尚寿会グループの存在意義だと思っております。そのために理事長を中心として事業所と法人統括本部が手を取り合い努力して参ります。これからも尚寿会グループをよろしく願ひ申し上げます。

期医療を主軸として地域の皆さんの生涯を支えることを目的としています。そして「コト医療」という価値観をもってサービスを提供することを強調しています。「コト医療」とは、医療介護福祉サービスと共に情緒的な価値・経験を提供することです。従来から病院で提供されている手術・処置・処方などが「モノ医療」、それに対して、より満足感が得られる体験（思いやりや優しさ）を提供するサービスを「コト医療」と名付けました。私達はこの情緒的な価値・経験の提供を「コト医療」として商標登録（登録番号640198号）し、尚寿会グループの根底にある価値観であることを内外へ発信しております。病棟でのレクリエーションや院内で調理する自前給食の提供、阿波踊りやお花見、鯉のぼりなどを通じて少しでも患者様に喜んでいただきたいという精神は開院当初から尚寿会に根付いてい

認知症初期集中支援チーム

あさひオレンジサポート

あさひ病院の認知症専門医、看護師、作業療法士、精神保健福祉士などの専門職と狭山市の地域包括支援センターの職員で構成されるチームです。

認知症の症状があっても住み慣れたご自宅で生活ができるようにご本人やご家族の困りごとや心配ごとに対しサポートしていきます。平成28年12月に始動し8年目となりました。今後も狭山市や地域包括支援センターと連携し、柔軟かつ迅速に対応できるよう努力してまいります。



認知症があっても住み慣れた自宅で…

「あさひオレンジサポート」が在宅での生活をサポートします！！

●「あさひオレンジサポート」(認知症初期集中支援事業)とは…

あさひ病院の専門職と指定地域の地域包括支援センター職員でチームを組んで、認知症があっても、住み慣れた家で生活が出来るように、おおむね最長6か月間、包括的・集中的に困りごとに対し初期支援を行います。

●対象となる方は？

在宅で生活している40歳以上の方で、かつ認知症が疑われる方や認知症の方で、次のことに該当する方です。

- ・認知症の診断を受けていない人
- ・認知症の治療を中断している人
- ・介護サービスの利用が出来ていない、または中断している方

困ったら、担当地域の地域包括支援センターにまずご相談ください。

まずは、おうちに訪問してご相談をお伺いし、どんなことがお手伝いできるか一緒に検討します！

● 狭山市役所 介護保険課 介護事業推進 ●

企業経営に関する言葉で、『ゴーイングコンサーン』があります。日本語には『継続企業の前提』と訳され、会社が将来にわたって事業継続していくとの前提を指します。毎年のように可能である限り経営を継続していくことは、当尚寿会グループにおいては地域の全ての皆様の医療・介護受療体制を支え続けていくことであり、また愛され信頼され続けることであると考えております。

そのために私達で出来ることは何でしょうか？ その問いに対する取り組みの一つとして、地域とのふれあいを目的に、これまでも地域自治会のお祭りやイベントに阿波踊りの『いきいき連』が参加し交流を深めて参りました。秋には『フリーマーケット』を開催し、エコロジーの観点からリユース・リサイクルの場を提供、また『地域クリーン大作戦』を実施して綺麗な街づくりへの貢献をしてきました。これらは今号で紹介し

ている『コト医療』を形にしているのです。

近年、企業活動にCSRという言葉を良く耳にすると思います。難しい言葉かと思いますが、「企業の社会的責任」という意味です。企業である以上利益を追求するのが一般的な常識と考えられますが、それだけにとらわれずに環境活動、ボランティア、寄付活動など、企業としての社会貢献の活動を指します。尚寿会グループでは企業市民の一員である以上、今までも当たり前のこととして、社会貢献活動に精力的に取り組んできました。

しかしながら2020年の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の大流行は、社会・経済システムそのものを大きく揺るがし、あらゆる企業はCSR諸課題についても様々な対応を強いられました。それは尚寿会グループも例外でなく医療体制の維持継続を最優先にし、全てのCSR活動を停止いたしました。

本年より適切な感染対策を実施し、更なる地域交流活動の再開を目指してまいります。活動案内は尚寿会グループの各施設ホームページを通じていたしますので、是非ご確認くださいようお願いいたします。

(尚寿会グループCSR推進担当 内田成彦)



資源ゴミ回収場

尚寿会グループのCSR活動



そのために私達で出来ることは何でしょうか？ その問いに対する取り組みの一つとして、地域とのふれあいを目的に、これまでも地域自治会のお祭りやイベントに阿波踊りの『いきいき連』が参加し交流を深めて参りました。秋には『フリーマーケット』を開催し、エコロジーの観点からリユース・リサイクルの場を提供、また『地域クリーン大作戦』を実施して綺麗な街づくりへの貢献をしてきました。これらは今号で紹介し

た。ただ昨年よりwithコロナ時代に向けて、職員有志による少人数での『地域クリーン作戦』の実施、地域の就労継続支援事業所で調理された和菓子の職員向け販売など、段階的に出来ることから再開をしています。

また新たに、職員より家庭で排出されるアルミ・スチール缶や資源ゴミを持ち寄り、リサイクル業者(株)テンスク様、狭山市狭山)に回収・換金をお願いし、子ども食堂の



尚寿会グループによる十四軒大樹様 和菓子プレゼント

転ばない健康教室 スタート

【日 時】毎月第2火曜日 13時30分～14時30分（受付13時15分～）
 【場 所】入曽地域交流センター
 【定 員】20名（要電話予約 事前申し込み制）
 【スタッフ】大生病院 リハビリ職員
 （理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
 入曽地域包括支援センター職員
 【問い合わせ】入曽地域包括支援センター
 TEL：04-2950-5300

水野体操教室 さんぽ

【日 時】毎月第4水曜日 13時30分～14時30分
 （受付13時15分～）
 【場 所】水野公民館
 【定 員】20名 事前申し込み制
 【スタッフ】大生病院 リハビリ職員
 （理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
 水野地域包括支援センター職員
 【問い合わせ】水野地域包括支援センター
 TEL：04-2937-7871



「押絵のまつむら」様よりアマビエ羽子板の寄贈と訂正



前回の「しんあい」Vol.2でご紹介しました「押絵のまつむら」の松村様より厄病を退散してくれると言われるアマビエの押絵羽子板を寄贈していただきました。現在、大生病院受付カウンター横に飾らせていただいております。ご覧になっていただければと思います。

また前回の記事におきまして地図に誤りがありましたのでお詫びと訂正をさせていただきます。



健康寿命をのばす一般介護予防教室 転ばない健康教室 スタート・水野体操教室 さんぽ コンセプトは「気づく！知る！変わる！」



健康寿命を延ばすため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が主体となりテーマに沿って専門的な知識をわかりやすく地域の方々へ提供いたします。



これまでに行ってきたテーマは「歩行の重要性」「認知症」「口の健康」です。健康を保つためには運動・認知症予防・栄養の3本柱をバランスよく実施することが重要です。知識だけではなく、体力測定を実施し、身体の変化に気づいてもらいながら体操を行っています。また、今年度からは目標を立て、なりた自分を目指しながら運動を行う明るく楽しい地域の体操教室の場となっています。65歳以上で健康に不安を感じ始めた方、病院で働くリハビリの専門家の話を聞いてみたい方、交流機会を持ちたい方など、見学や体験してみたい方はお気軽にお近くの地域包括支援センターまでご相談ください。

※スタート・さんぽ共に内容は大きく変わりません



尚寿会・尚栄会ご近所探訪シリーズ 第3弾



～所沢北田農園 苺のマルシェさん～

今回訪ねたのは所沢北田農園
苺のマルシェさん。当法人から
は車で5分程の場所にあり、い
ちご狩りをはじめ、いちごやい
ちご加工食品等の販売をされて
います。こちらを経営する北田
さんに案内をしていただきました。

ビニールハウスに一歩足を踏
み入るとまず魅惑的な甘い香
りに包まれました。実の赤、
葉の緑、花の白が広大な敷地に
見事なコントラストを生み出し
ていて、圧巻の眺めです。いち
ごは総数28000株。地上か
ら1メートル程の位置に苗床を
据え、小さな子ども目線でい
ちごのきれいな赤色を楽しめる
ようになっています。熟してい
ちごはつやつやと光り輝き、10
センチくらいの大きいものもあ
り驚きです！目を引くのは実
だけでなく、葉も陽の光を浴び
て生き生きとしていました。白
く可憐な花には西洋ミツバチが
せっせと受粉を手助けしてお
り、習性により紫外線に反応し
て働き出し、夜になると巣箱へ
戻るそうです。いちごの花に蜜
はほとんどなく、北田さんが砂
糖水を巣箱の前に置いておくの
だとか。いちごの生育にはと



ことなかれ、土作りや肥
料・ハウスの環境制御等たく
さんの機能を駆使。こうして愛
情たっぷり育てられたいちご
が、現在いちご狩り（いちごピ
クニック※）ではかおりの・あ
きひめ・紅ほっぺが、他あり
ん・かおりんという埼玉県オリ
ジナルの希少ないちごなどは販
売にて味わうことができます。
私は「かおりの」をいただきま
したが、みずみずしく爽やかな
品の良い甘みが口いっぱいに広
がり、後を引くおいしさです！
もともといちごが好きだったこ
と、近所の富岡小学校の新年
生の数がわずか60数名だと耳
にし地域の過疎化を心配したこ
とがきっかけで、8年前から開
業。シーズンには大勢のお客様
が足を運んでくれて、おかげさ
までこんなに楽しく仕事ができ

所沢北田農園「苺のマルシェ」

住 所 〒 359-0001 埼玉県所沢市下富 1168
電 話 090-8778-1504
営業時間 10：00～16：00
なくなり次第終了となります
定休日 毎週月曜日（祝日をのぞく）、
1月1日、他臨時休園あり
駐車場 60台
URL <https://ichigo-marche.com>



て幸せです、と北田さん。また
いちごはビタミンCや葉酸が豊
富な自然のサプリメントとのこ
と。取材を終えたころすつかり
いちごの虜になった自分に気付
くのでした。
※詳しくは北田農園ホームページを
ご覧ください



地域と共に歩みたいという想いのもと、「しんあい」の制作にあたっています。その中でも編集部が実際に地域へ足を運び取材をしているのがご近所探訪シリーズです！ご覧になって頂けたでしょうか。「地域の活性化」や「繋がり」という側面から取材をしていますが、取材側として他業種ということもあり、皆様から新たな気づきや刺激を沢山いただきました。どの取材先でも皆さん好きなことを極めることや地域への貢献、繋がりを意識された仕事をされていました。最近ではコロナに追われ疲弊しているこの医療介護業界。好きで選んだこの仕事。今年こそは楽しく、極めて患者様、利用者様に還元したいと取材を通じて感じています。

編集長 なみ